

「古いミッキーマウス」をめぐって

山 本 忠 行

【要 旨】

「古いミッキーマウス」という表現の受け止め方は、日本人と外国人ではかなりのずれがあるようである。その一つの原因は「古い」が物や事柄について述べることが多く、「若い」の反対語として使うことができないことにある。それに対して、英語の「old」や中国語の「lǎo (老)」は人間の年齢についていうことが基本であることが影響していると思われる。本稿では英語や中国語などと比較しながら、「古い」の用法を詳細に検討することによって、日本語教育で「古い」を扱うときの問題点を考察した。

【キーワード】 初級語彙・年齢表現・若い・新しい

1. はじめに

山本 (1998) では「多い」という形容詞の用法をめぐって考察したが、初級で扱うような基本的な形容詞の中には用法上様々な問題点をはらんでいるものが多い。その一つが「古い」である。

以前、シンガポールから来た留学生とディズニーランドへ行ったとき、ミッキーマウスの帽子をかぶっていたら、「あ、古いミッキーマウスだ」と言われ、一瞬どういう意味かと戸惑ったことがある。よく考えてみると、「an old Mickey Mouse」、中国語なら「老米奇」、つまり「老けたミッ

キーマウス」、あるいは「おじさんミッキーマウス」とでも言いたかったのであろう。他にも「old」に相当する語として「年取った／おやじ／年寄り／老いた／老人」などいくつも考えられるが、使う場面はそれぞれ決まっている。筆者は当時ちょうど40歳をすぎたころであったが、こういうときに一番適切な修飾語はいったい何なのかと考え込んだのであった。

本稿では「古い」という語を中心に、いくつかの外国語と比較しながら日本語教育上の問題点を明らかにしたい。

2. 「古いミッキーマウス」とは何のことか

「古いミッキーマウス」という表現が筆者を戸惑わせた理由として、次のようなことが考えられる。

まず、「ミッキーマウス」というのは、ディズニーの考案したキャラクターの一つである。このキャラクターは初期のものと後期のものではかなりの変化が見られる。ファンが見れば、いつごろのものかすぐに分かる。後期のものが「新しいミッキーマウス」であり、初期のものが「古いミッキーマウス」というケースが考えられる。もう一つは筆者がかぶっていた帽子である。買ったばかりの汚れていない帽子は「新しいミッキーマウス」であろうし、もし使い古しであれば「古いミッキーマウス」ということになるだろう。

ところが、考えられる上記の二つの理由は、いずれも当てはまらない。なぜなら、当時は古い型のミッキーマウスはまだ商品化されていなかったし、かぶっていた帽子は買ったばかりの真新しいものであったからである。

ここで重要なのは、この留学生が言いたかったのは「筆者が『古いミッキーマウス』だ」ということであり、帽子についてそう言ったわけでは

ないということである。つまり、話し手である留学生が「古いミッキーマウス」と言ったときに考えていたと思われる「ミッキーマウス（＝人間＝筆者）が『古い』（もう若くない）」ということと、聞き手である筆者が日本語としての「古いミッキーマウス」から思い浮かべた「ミッキーマウス（＝キャラクター／帽子）が古い」ということとが一致しなかったために起こったミス・コミュニケーションだったのである。言い換えれば、この「古いミッキーマウス」の例は、学習者が「古い」によって形容しようとした内容が日本語では一般に認められないことによって生じた誤用なのである。

Mizutani (1977) にも学習者の日記という形で「古い」の使い方を間違えた例が紹介されている。叔母の写真を学習者が日本人に見せたら、「ずいぶん古そうな家ですね」と言われたので、「ええ、古いです。おばさんもかなり古いです」と答えたという。すると、相手はうまい冗談をいって感心したという話である。この場合は冗談と受け止められてすんでいるが、相手の気分を害してしまうおそれがないとは言えない。

こうしたことは日本語教育の現場では珍しいことではないが、特に形容詞で起こりやすいようである。それは基本的な形容詞でも名詞と比べて学習者の母語でそれに相当するものとの意味や用法のずれが大きいからであると推察される。

3. 「古い」に関する辞書の記述

ここで、「古い」について辞書ではどのように記述されているかを確認しておきたい。¹⁾『新明解国語辞典第5版』には、まず「新しい」の反対語であることを示し、①「始まって（すんで・何かが行われて）から、（長い）時間がたった状態」、②「新鮮（新式）でない」の二つに大きく分けて説明している。『基礎日本語辞典』（森田 1989）は①現在を基準にして

過去へさかのぼった時間が長い場合は「古い」、きわめて短い場合は「新しい」、②長いときの経過がそのものを価値づけるときもあるが、多くは価値や質を落とすという気持ちを伴う、③あとから他のものが現れたことによって新しい物でなくなる場合、の三つの点から分析し、①には「古くも新しくもない状態」があるが、③は「新しい／古い」の二者択一になることを指摘している。『基礎日本語辞典』は「評価」の観点を取り入れているのが特徴である。辞書によってはもっと細かく分けているが、「古い」の用法の特徴はほぼ記述されていると見てよい。

これらをもとに整理し直すと次のようになるが、プラス評価で使える場面が少ないことがわかる。

- a. 長い時間の経過／遠い昔 中立的
- b. 価値や質の低下／新鮮でない マイナス評価
- c. 旧式・旧型／時代遅れ（新たなものが出現） ... マイナス評価
- d. 古風・古典・古雅／古参・年功／伝統 プラス評価

このa～dの記述では、本稿のテーマである学習者の誤用の分析や指導法の改善を考えるにはまだ不十分である。その鍵となるのが、すでに「古いミッキーマウス」を例にして述べた、何を対象とするかである。さらにどういうときに使うのかも重要である。これが分からなければ、たとえば意味が分かっても適切な表現をすることはできない。

4. 「古い」と「old」と「lǎo (老)」

4. 1. 日本語教育における「古い」

まず、日本語の教科書で「古い」がどのように扱われているかを見てみると、「古い」が修飾する言葉としては「建物／家」や「鞆／机／本」などが多い。さらにどのような注があるかと調べてみると、中には単に「old」「not new」ですませているものがある。これでは「古い」を正しく

使うための情報としては不十分である。*Japanese for Everyone*では「objects, not age」という注を入れている。これは学習者にとって「古い」を正しく使うために欠かせない情報である。食べ物³が例に挙げられている*Japanese for Busy People*では「not fresh」という注が付いている。「新しい」が「fresh」、「古い」が「新鮮ではない」という意味で使われることも日本での生活上役立つ情報と言える。

ところで、たいていの場合「古い」は基本的な形容詞の学習のところで「新しい」とペアで提示されるのに対して、「若い」は別の課に単独で提示され、反対語は出てこない²⁾。初級で「若い」の反対語に近いものという「おじいさん」「おばあさん」しかない。では、中上級ではどうかというと、今度は「老人」「年寄り」、あるいは「高齢者」といった名詞が出てくるだけである。「年取った」「老けた」「老いた」などは、中級までに出てくることはほとんどない。

『日本語能力試験出題基準』もこれを認めるかのごとく、「老人」と「年寄り」は2級の語彙、「老いる」「老ける」は1級の語彙ということになっている。「年取った」は「高齢者」とともに語彙リストにない。これは「若い」の反対語に相当する表現は学習者に教えなくてもいい、あるいは教えなくてもわかるだろうと言っているに等しい。これでは学習者が「若い」の反対の意味のことを述べようとしたときに適切な表現、あるいは回避法を知らなければ、「古い～」という言い方をするしかなくなってしまう。

4. 2. 英語や中国語では

英語の「old」は日本語の「古い」のような使用制限は少ないようである。コーパス辞書の一つ *Cobuild English Dictionary for Advanced Learners* を見ると、その解説の第1項が「Someone who is old has lived

for many years and is no longer young.」となっている。この記述から「old」は人の年齢に関する語であり、「young」の反対語に相当することがわかる。以下第4項までは年齢に関するものである。「old」の意味の中核をなしているのは、人の年齢に関するものであることは明白である。そして第5項と第6項が物に関するもの、そして第7項では「old friend」、第8項が親しみを表す用法、さらにもう価値のなくなった物や過去の時間を示す用法などが続く。用法解説のところでも、あとの方に「'old' used to describe objects」という項目があるぐらいで、「old」がいかに関人優先の語であるかがわかる。

中国語には日本語の「古い」に関連する語として、「gǔ (古)」「gù (故)」「jiù (旧)」「lǎo (老)」などがあるが、この中で「jiù (旧)」は「xīn (新)」に対する語で「家／靴／服／友」などを修飾するので、日本語の「古い」と用法的に重なるところがかかなりある。「gǔ (古)」は「昔、いにしえ」が基本的な意味であり、物を修飾する場合は対象が限られる。では、「lǎo (老)」はどうかというと、『中日大辞典』(大修館)で最初のほうに挙げられているのは「老いている」「老い衰える」「古くからの」「時代遅れの」というような用法である。どちらかということ人間に関するものが主な対象となっているという点から見て「lǎo (老)」は英語の「old」と重なる部分が大いと言えりかもしれない。

これらと比べたとき、日本語の「古い」という語の特徴が浮かび上がってくる。第一に、「old」や「lǎo (老)」は人間に使うのが中心で、それが物にも及ぶのに対して、「古い」は後述するように人間について使うこともあるが、基本的に物と事柄に用いられる。西尾(1972)もこの点に注目したようで、「生命のないもの対生命のあるものという対立と考えられる」ものとして「新しい／若い」、「古い／年取った、老いた、年老いた」、「たくましく³⁾がんじょうな」などを取り上げている。第二に親し

みを表すことはほとんどなく、骨董的なものを除くと、基本的にマイナス評価だということである。⁴⁾

ちなみに、タイ語では「kào」と「kèe」が区別される。「kào」は意味的に「旧」に近く、「年」に付ければ「前年」、「妻」に付ければ「先妻」、「頭」に付ければ「古い考え方」を意味する。それに対して、「kèe」は「人」であれば、文字通り「老人」を表すが、「色」なら「濃い色」、「果物」なら「熟した果物」、「木の葉」なら「濃い緑の葉」であり、枯れ葉のことではない。枯れ葉は「乾いた」を意味する「hêen」を使う。したがって日本語の「古い」に近いのは、「kào」のほうであろう。

これを表にまとめると次のようになる。⁵⁾この中で「友人」にすべて「○」がついているが、中国語・タイ語で上段の部分は「古くからの友人」であり、下段は「年取った友人」となり、意味が異なる。

	種類	動 物		植 物		物	場所	心理	食品
	対象語	人(歳)	友人	木	葉	服	町	考え方	肉
日本語	古い	×	○	○	△	○	○	○	○
英 語	old	○	○	○	○	○	○	○	○
中国語	jiù	×	○	×	×	○	○	○	×
	lǎo	○	○	○	×	×	×	×	×
タイ語	kào	×	○	×	×	○	○	△	△
	kèe	○	○	△	×	×	×	×	×

5. 人について述べるときの「古い」

5. 1. 地域差

現在、共通語では人の年齢について「あの人は古い人だ」とか、「この町には古い人が多い」ということはないと思われる。しかし、『源氏物語』や『平家物語』のような古典だけでなく、近代文学の作品には人の年齢

について「古い」という例がときどきある。

○「髯の白いお爺さん、そのまたお婆さん、幾人の古い人たちがこの屋根の下に生きながらえているとも知れない。」(『夜明け前』)

○「古るい人に先だたれ、新らしい人に後れば、今日を明日と、その日に数る命は、文も理も危い」(『虞美人草』)

○「その母は古い人で古いいなかにおる。」(『三四郎』)

上記の例は筆者が集めたものであるが、西尾(1972)にも同様の例が報告されている。

○「『旦那、旦那、お蔭で助かりました。』と噎れてつぶれてしまって古いのか若いのかわからぬその男の声はしきりに繰り返してゐた。」(『冬の宿』)

西尾によると、方言によっては老齡の意味で「古い」が「使われる可能性がないわけではないらしい」という。そして静岡県にそういう地域があるとの証言を紹介しているが、『冬の宿』が方言的なものの反映であるのか否かはわからないとしている。『冬の宿』の作者・阿部知二が岡山県美作の出身だということで、筆者は岡山県玉野の出身の妻に確認したら、この文に違和感を感じないとのことであつた。⁶⁾とすると各地に「古い」を今でも「年取った」の意味で使う地域があちこちに残っているのかもしれない。

5. 2. 「古い」と人間にかかわる表現

では、現代語では「古い」を人間に関する表現で使ったときは、どのような意味になるのか考えてみよう。

①「彼は古い人間だ」

老人のことではなく、「考え方が古い人間」、「伝統やしきたりを守って生活している人間」を指す。「古い男」「頭が古い」などの言い方も

ある。「昔の人間」に近いと考えられるが、「昔」は何世代も前、あるいは古代人を意味することもあり、その場合は「古い人間」で置き換えることはできない。

- 「私はひとかどの思想家のつもりで他のまじめに学業に励み教訓に忠実な人々を蔑んだ。私たちがそれらの人々を呼んだ名は『古い頭の男』もしくは『意気地のない男』というのであった。」(三木清『語られざる哲学』)

日本語で「古い先生」といった場合は、「考え方や教え方などが新しいくない」という意味か、「この学校に長く勤めている先生」のことになる。英語では「our old maths teacher」は「年取った先生」の場合もあるが、「前の数学の先生」を指すこともある。現代語の「古い」にはこのような用法はないが、辞書には「旧年」と書いて「ふるとし」と読ませて「前の年」のこととある。こういう言い方はすたれつつあるのではないだろうか。

②「古い自分」

「過去の自分」のことを「古い自分」という言い方をすることがある。「古い殻を破る」という言い方もある。

- 「Kが古い自分をさらりと投げ出して、一意に新しい方角へ走り出さなかったのは、現代人の考えが彼に欠けていたからではないのです。」(夏目漱石『ころろ』)

「自分」だけでなく、「自分の行為や思考」も「古い」の対象となる。

- 「始に恋ひしをば棄てられ、後には棄てしを悔らるる身の、その古き恋はなほ己に存し、」(『金色夜叉』)
- 「古い良心が自分の心をさいなむたびに、葉子は外国人の良心というものを見たく思った。」(有島武郎『或る女』)
- 「私の古い空想はその場で壊れてしまった。」(梶井基次郎『愛撫』)

このように以前の思考様式や生活態度・習慣について述べるときに「古い」を用いることができる。こうした使い方は現在でもよく使われる。

③「会社で一番古い人」

年齢ではなく、学校や会社などで長くいるという意味で「古い」を使うことがある。「古参／古顔／古株」という意味である。英語では「old」とともに「senior」が使われるところである。

④「古い友人」

これは「長年つきあっている友人」、あるいは「昔の友人」ということになり、やはり「年取った友人」の意味にはならない。

⑤「古女房」 * 「古い女房」

「長年連れ添った妻」を「古女房」とはいうが、「古い女房」とは言わない。『広辞苑第4版』には「年とった妻」という語義も示されている。長い結婚生活を経れば当然年もとるが、単なる「老妻」の意味では使いにくいと思われる。同じく「長年連れ添った妻」として「古妻」も『広辞苑』に出ているが、これも「古い妻」とは言わない。またこれには「先妻」という語義も示されている。「古＋名詞」のほうが「古い＋名詞」よりも用法の幅が広いようである。

○「彼らはすでに過去何年かの間に、夫婦という社会的に大切な経験を彼らなりに嘗めて来た、古い夫婦であった。」（夏目漱石『行人』）
このような言い方は、現在ほとんど聞かれないと思われる。

⑥「古い家族」

歴史のある家、「旧家」という意味で「古い家族」ということがある。人間に関する表現とは少し異なるが、建物のことではないので、挙げておく。

○「民助と義雄とは同じ先祖を持ち同じ岸本の姓を名のる古い大きな二つの家族の家長たる人達であった。」（島崎藤村『新生』）

⑦* 「兄はわたしより2歳古いです」

日本語を習い始めたばかりの学習者がこのような言い方をすることがあるが、これは日本語では認められない表現である。年齢について述べる場合、英語では子どもの年齢を「～year (s) old」で言えるし、比べる場合にも「older」として使える。

日本語では子どもの年齢について「古い」や「年取った」を使うことができないのはいうまでもない。「(年) 上」や「年長」を使わなければならない⁷⁾のだが、日本語教科書では、こうした表現を述べる場面はほとんど扱われていない。しかし、日本での生活ということを考えると、中級レベルでは自己紹介や家族や友人の紹介などの場面で一度は学習しておきたい表現の一つである。

6. 「古い」の他の用法

「古狸」「古狐」のような比喩を除き、人間以外の他の動植物について「古い」はどのように使われているのであろうか。

まず「動物」については、「年取った猫」や「老いた馬」はあっても、「古い」を用いた例を見つけることができなかった。人間のように過去の思考方法や生活習慣と比較することがないので、「古い」を使う場面がないのかもしれない。あえて「古い猫」といえば、それは最近の外来種の猫ではなく、三毛猫などの在来⁸⁾の日本猫を指すことになるであろう。

「植物」についてはいろいろな例があるが、そこには興味深い点が見いだされる。「若い木」に対して、「老いた木」とか「古い木」という言い方が両方可能である。植物は物と動物の中間に位置するのかもしれない。

○「髪につける油を自分で絞ろうとさえ思えば、毎年表庭の片すみに実を結ぶ古い椿を役に立てることもできた。」(島崎藤村『夜明け前』)

○「押入れ、床の間のついた六畳ほどの広さで、障子の外に見える古

い松の枝が塀越しに高く街道の方へ延びているのは、それも旧本陣としての特色の一つである。」(『夜明け前』)

では「若い葉」「若葉」の場合はどうであろうか。大きい辞書には「古葉」と並んで「古草」も挙げられているが、「古い葉」「古葉」とは現代語では一般に言わないのではないだろうか。「枯れ葉」とも言えるが、これでは完全に茶色になった葉しか指さない。「落ち葉」「朽ち葉」などの言い方もあるが、いずれも木の枝から落ちてしまった葉を思い浮かべる。次の例の「古い杉ッ葉」も地面に落ちて時間が経ち、からからに乾燥した茶色の杉の葉のことである。

○「檜葉、樅などの古葉貧しげなるを望むべき窓の外に、庭ともあらず打荒れたる広場は、唯麗なる日影のみぞ饒に置余して、」(尾崎紅葉『金色夜叉』)

○「おれもたまらんから、古い杉ッ葉に火をつけて、投りつけてくれた。」(『夜明け前』)

「若葉」の反対語としては多少紅葉して木の枝に残っている場合、正確には「枯れかけた葉」とでも言うほかないであろう。「老いた葉」「年取った葉」も使いづらい。つまり樹木のように寿命の長いものであればよいのだが、基本的に数か月しか持たない木の葉や草花は、品種の新旧について述べる場合以外は「新しい／古い」を用いることはできないと考えられる⁸⁾。次のような例もあったが、これは翻訳であり、原文の「old」に影響された可能性が高い⁹⁾。

○「古いつたの葉っぱと、あなたが元気になると、どんな関係があるっていうの？」(オー・ヘンリー『最後の一枚の葉』結城浩訳)
動植物に関する例ではないが、青空文庫には同じ訳者の手になるものに次のような例があった。

○「古い一年の最後の夜に凍え死んでいたのです」(アンデルセン「マッ

「チ売りの少女」 結城浩訳)

これは「前の年の最後の夜」「大晦日の夜」とでも訳さないと、何のことかよくわからなくなってしまう。「old」の翻訳は気をつけないと、変な日本語になってしまう例である。

7. 「古い」の関連語

「古い」は、「古くさい」「古めかしい」「古ぼけた」「古びた」、あるいは動詞との複合語として「使い古す」「着古した」「言い古された」など、関連語の多い形容詞の一つである。このことも「古い」の使い分けを難しくしている要因と言える。

「古い」はそれだけでもマイナス評価で使われることが多いが、それを積極的に示すのが「古くさい」で、古くて、新鮮さがなく、時代遅れだという場合に使われる。ただし、そう感じればよく、本当は新しい物でもかまわない。それに対して「古ぼけた」は同じくマイナス評価であるが、実際に時が経って色あせた写真や使い古したかばんなどに使うことが多い。

一方「古めかしい」にマイナス評価が伴うことはあまりない。見るからに古そうで、歴史や伝統を感じさせるものによく使われる。たとえば、ホテルに泊まる場合、「古くさいホテル」や「古ぼけたホテル」では立派なホテルとか、高級なホテルとは思えないが、「古めかしいホテル」なら一流ホテルの可能性もある。「古い」のみでは聞き手や読み手に自分の思いや印象がうまく伝わらないので、中上級の学習者であれば、使い分けの指導がほしいところである。

8. 「新しい」と「若い」について

使い分けの原則は「新しい」が非生物、「若い」が動植物ということになるが、実際の用例は「新しい先生」と「若い先生」のように使い分けが必要になることも少なくない。「若い」は生まれてからの期間が短いことであり、「新しい」は物や事柄が成立してから時間があまり経っていないというふうに定義したほうがいいであろう。

西尾 (1972) は「若い」の特徴について、「生命あるもののようにこれから伸びてゆく、将来性のある」ものであれば、比喩的に使うことができるとして「アルミは若い金属である」という用例を示している。今であれば「IT関連産業は若い産業である」というような言い方ができよう。「新しい金属」「新しい産業」は事実を述べているが、「若い」という語には将来への期待が込められている。こういう場合は反対語はやはり「古い産業」となり、「若い／古い」の対立が場合によっては可能になると言える。

また、生まれて間もない赤ん坊のことを「若い赤ちゃん」とは言えない。2、3歳の幼児についても同様である。「幼い子」「小さい子」になる。「若い」を使うには少なくとも子どもの世界を抜け出しはじめたころ、中学生以上でないと使いにくいと思われる。そうした年齢に達すると「子どもっぽい」「子どもじみた」などの修飾語も使用可能になる。

9. 「古い」の指導に関する提言

これまで考察してきたことをもとに、「古い」を教える際の具体的な指導上のポイントを整理し、指導のあり方を考えてみたい。

1) 対象

「古い」で形容される対象となるのは原則として物や事柄である。

人について用いるときは、考え方や生活様式などに関するもの、あ

るいはその会社や地域に長くいる場合である。

2) 年齢

「若い」の反対語にあたる形容詞はない。「古い」を年齢に関して用いることはできない。あえて形容詞で述べたければ「若くない」と言わなければならない。

一般に年齢について述べるときは「老けた」「年取った」「老いた」などを用いる。ただし、「年取った」は老人に限られる。「老いた」は文章語である。

「老人」という語を学んで、そこから類推して「老女性」という語を使った学習者もいた。「老」を使った熟語についても確認した方がよいであろう。

「若い」も対象が子どもや赤ちゃんの場合には使えないので、「幼い」「小さい」あるいは「子どもの～」となることがわかるような例や練習を入れておいたほうがよい。

年齢を比較するときは、「年上／年下」「～歳上／～歳下」「年長／年少」などを用いる。

加齢についても「古くなった」と言う学習者が見られるが、「(～歳)年を取った」という文型を学習しておきたい。年齢を具体的に述べないときは、子どもであれば「大きくなった」「成長した」、大人であれば「老けた」「老け込んだ」「老化した」などという。

	時間があまり経過していない	長い時間が経過
もの／こと	新しい	古い
人／動物／植物	若い／幼い／小さい	—(年取った／老いた)

3) 評価

マイナス評価を伴うことが多く、英語や中国語のように親しみを

表すことはない。中上級ではいろいろな語彙を使い分けて、微妙なニュアンスの区別ができるようにしたい。

4) 「古〜」と「古い〜」

「古い」は形容詞としてそのまま使うときと、あとの語と複合名詞にして使う場合がある。そのとき意味用法が「古傷／古い傷」「古本／古い本」のようにほとんど同じ使われ方をするものもあるが、異なった意味で使われるか、あるいはどちらか一方しか使えないものも少なくない。「古い友人」は「*古友」と言えない。「古狸」のようなものが「古い狸」にならないのと同様に「古顔」も「古い顔」にはならない。こうしたものはその都度辞書で確認させる必要がある。

10. おわりに

本稿では基本的な語彙の一つ「古い」を取り上げて、見落とされやすい指導上の問題点を考察した。その中で、学習者の母語との意味のずればかりでなく、背後にある価値観や類義語の使い分け、場面に応じた表現など複雑な要素が絡み合っていることが分かった。

「an old Mickey Mouse」を日本語で言おうとした場合、親族名称を使えば「ミッキー兄ちゃん」「ミッキーおじさん」「ミッキーじいさん」などと言える。前につけて「おじいさんミッキーマウス」などの形でもよい。年齢によって「年上の／年長の／老けた／老け込んだ／中年の／年寄りのミッキーマウス」、文章語であれば「初老の／老いた／年老いた／老いぼれた／高齢のミッキーマウス」や「ミッキーマウス老人／長老」などが考えられる。さらには「よぼよぼの／かくしゃくとしたミッキーマウス」も年齢表現に入れられるであろう。ミニーマウスであれば、女性用の表現もいろいろある。

「古い／新しい」「若い／老いた」などは価値観をともなう表現であり、

場面や文体によって使い分けられるようになることが重要であるが、そのためには初級から上級までいろいろな段階で扱っていかなければならないと思われる。しかし、実際は中上級の教材ではほとんど取り上げられていないのが現状である。今後は具体的にどのように教材開発や授業内容の改善につなげていくかが課題である。

【注】

- 1) 『大辞林第二版』には『源氏物語』や『平家物語』などに見られる、「年若い」とか「老練」などの用法も示しているが、現代語としてはすでに失われた語法と見てよいであろう。
- 2) 『基礎日本語辞典』も「若い」の反対語はないとしている。
- 3) ／は反対語、＜は類義語を示す。西尾の用法。
- 4) 『世界のことば100語辞典アジア編』の脚注には「旧(jiù)」と「老(lǎo)」の違いとして、単純に事物の新旧をいうときは「旧」、古いことがプラスあるいはマイナスの価値を持つような場合には「老」が用いられるとの指摘がある。
- 5) 肉については中国語では「bù xīnxiān」、「新鮮でない」と表現する。タイ語でも肉・果物・花などについて「mai sòt」と一般にいう。また、「kàokèe」と両方一緒に使うと「古くさい」「おんぼろ」の意味になる。時代や考え方については「booraan」が使われる。
- 6) 倉敷出身の同僚は使わないというので、地域差、年代差などの要素も加味した調査がないと断定はできない。
- 7) 逆に年下の場合、大人の年齢であれば「～歳若い」と言える。
- 8) 木の葉が樹木の一部であることも関係があるかもしれないが、人体で考えたときに「古い歯」は抜け落ちた歯であり、物としての扱いになる。
- 9) 岩波文庫版の天津栄一郎訳では「鳶の枯葉」としている。

【参考文献】

愛知大学中日大辞典編纂処編 (1986) 『中日大辞典増補版』 大修館

石井米雄他編 (1999) 『世界のことば 100 語辞典』 三省堂
大津栄一郎訳 (1979) 『オー・ヘンリー傑作選』 岩波書店
金田一京助他編 (1997) 『新明解国語辞典第 5 版』 三省堂
国際交流基金編 (1994) 『日本語能力試験出題基準』 凡人社
新村出編 (1991) 『広辞苑第 4 版』 岩波書店
西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店
AJALT. 1994. *Japanese for Busy People*. Kodansha International, Tokyo
Mizutani, Osamu & Nobuko. 1977. *Nihongo Notes 1*. The Japan Times
Nagara, Susumu (eds.). 1990. *Japanese for Everyone*. Gakken, Tokyo
Sinclair, J (eds.). 2001. *Cobuild English Dictionary for Advanced Learners, Major New Edition*. Harper Collins Publishers, Glasgow.

その他：青空文庫（Web 上の電子図書館）版の文学作品から
『夜明け前』『新生』『虞美人草』『三四郎』『行人』『こころ』『語られざる哲学』
『金色夜叉』『愛撫』『最後の一枚の葉』『マツチ売りの少女』『或る女』